

令和4年9月5日 ※1
(前回公表年月日:令和4年9月)

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																								
東京服飾専門学校	昭和26年9月27日	山下 節子	〒 170-0002 (住所) 東京都豊島区巣鴨1-19-7 (電話) 03-3946-7321																																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																								
学校法人池田学園	昭和51年9月10日	野間 憲治	〒 170-0002 (住所) 東京都豊島区巣鴨1-19-7 (電話) 03-3946-7321																																								
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																																						
服飾・家政	服飾専門課程	アパレル造形科バタンナーコース		平成22年文部省 告示第7号	—																																						
学科の目的	学校教育法に基づき、高度な専門知識と技能習得をとおして創造性豊かで人格的にも優れた人材を育成し、ファッション業界先般、服飾繊維産業界の発展に貢献。																																										
認定年月日	令和3年4月15日																																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																				
2 年	昼間	1700	497.5	195	882.5	0	275																																				
生徒総数	生徒数	留学生数(生徒数の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																						
40人	17人	0人	11人	2人	13人																																						
学期制度	■前期 (4/11～7/27) ■後期Ⅰ (9/1～11/30) ■後期Ⅱ (12/1～3/3)		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評定の基準: 授業態度・課題及び筆記試験 評価の方法: 授業担当教員による10～6段階																																							
長期休み	■夏 季:7月28日～8月31日 ■冬 季:12月24日～1月10日 ■春 季:3月4日～4月6日		卒業・進級 条件	卒業要件: 1700時間以上の履修時間を修めていること、及び各科目の総合評価が6以上で 進級要件: 850時間以上の履修時間を修めていること、及び 各科目の総合評価が6以上であること。																																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人連絡、個人面談 長期休暇期間補習・補講		課外活動	■課外活動の種類 (例) 学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 現場・企業研修・インターンシップ 部活・サークル活動 ■サークル活動: 有																																							
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(令和3年度卒業生) 株式会社 ALCATROCK、shinyaseki、株式会社コモ ■就職指導内容 就職ガイダンス授業を1年次より行い、毎回企業人事、OBOGを招いての講演会 や合同説明会への参加を行っている。またアウトソーシングで、人材教育トレー ナーを招いての採用試験準備も行っている。 ■卒業生数: 8 人 ■就職希望者数: 5 人 ■就職者数: 3 人 ■就職率: 60 % ■卒業生における就職者の割合 : 38 % ■その他 進学3名		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th><th>種別</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>パターンマキнг技術検定</td><td>③</td><td>8</td><td>8</td></tr> <tr> <td>色彩検定</td><td>③</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr> <td>洋裁技術認定試験</td><td>③</td><td>3</td><td>2</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当する か記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 0				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	パターンマキнг技術検定	③	8	8	色彩検定	③	1	1	洋裁技術認定試験	③	3	2																				
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																								
パターンマキнг技術検定	③	8	8																																								
色彩検定	③	1	1																																								
洋裁技術認定試験	③	3	2																																								
中途退学 の現状	■中途退学者 0 名 令和3年4月1日時点において、在学者16名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者16名(令和4年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 0 ■中途退学・中退者支援のための取組 学生相談、随時転科、転科コース変更制度、再入学制度によるフォローアップ		■中退率	0 %																																							
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 推薦入学者には、特典として後期授業料から10万円免除(但し、前期総合成績がクラス平均点以上、1科目の出席が前期授業日数の65%以上の者) ■専門実証教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 0																																										
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載																																										
当該学科の ホームページ URL	https://www.tfac.ac.jp/course_post/アパレル造形科バタンナーコース/ 評価結果を掲載した ホームページURL 0																																										

2. 就職等の状況(※2)

3. 主な学修成果(※3)

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本校での教育理念にもとづいて、これまでにインターンシップや年間3,000件ほどの実務体験(現場研修)などで連携協力関係を築いており、さらに連携事業として企業の人材育成のプログラムの各科目への導入をおこなってきている。

また科目ごとの教職員、指導内容の作成や評価について助言や協力をいただき、現在の実務の現場で必要とされる人材育成や学科編成における将来の目標目的設定に重要な関係であり、将来の業界を担う人材育成に手厚い協力をいただいている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本校での教育課程編成委員会は学科別授業計画の作成を行う教務部に対して直接に助言や提言を行う位置付けとして、設置している。教育課程編成委員会は産学連携の強化と実技実習教科の充実を図ることを目的として、平成29年度より設置。企業等委員と各学科長、教員により組織している。教育課程のカリキュラムの編成、実施状況、成果の確認、改善点について関連分野の企業・団体等からの委員の参画によって業界の現状動向を踏まえた助言や将来的な人材教育の協力機関として教育課程編成委員会を置いている。教育課程編成委員会は、前期修了後(8月)と、年度末(3月)に開催し、それぞれの回において、該当年度の検証や実施結果の反省を行い、翌年度の改善点、習得目標の設定を検討する。委員会の結果は各科教務においてまとめられ、次年度計画会議において校内のバランスや連携を図りながら導入目指し、次年度のカリキュラム編成や各科目のシラバス作成を行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年8月20日現在

名 前	所 属	任期	種別
上山 健二	日本アパレル・ファッション産業協会繊維ファッション産学協議会	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	①
岩田 佳典	日本モデルエージェンシー協会 理事長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	①
田中 大資	株式会社クレヨン 代表取締役	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
高橋 英一郎	ソーイングアサヒ株式会社 代表取締役	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
山下 節子	池田学園 校長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
鷺 典子	池田学園 教員	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
中島 由紀子	池田学園 教員	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
古賀 由紀夫	池田学園 教員	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (8月、3月)

(開催日時(実績))

第6回 令和2年度 3月1日 新型コロナウイルス感染症の流行により、外部委員への文書による聞き取りを行う

第7回 令和3年8月4日 15:30～17:00

第8回 令和4年3月16日 16:00～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

教育編成委員会において、プレゼンテーション能力、コミュニケーション力を強化するための授業や課題の在り方について提言があり、外部(企業)からの講師を招いた産学連携授業の機会を増やすこととする。また実技実習や座学の資料などにおいてはデジタルツール(DX)の積極的な利用を推進し、実社会の実務においてすすむデジタル化に対して対応した授業を行うようにハード面とソフト面を次年度開始までに整えていくこととした。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

当学科での産学連携実習・演習授業については、職業意識と技能の習得した2年次より行うこととし。連携企業からの講師との打ち合わせによって作られた課題や指導内容をもとに実習、演習を行う事にことになっている。単なる実務体験とならぬように、企業側のメリットも考慮の上、学生の就労意欲や商品企画の理解、技術の向上を期待している。連携企業による授業の実施には円滑な授業の展開、評価基準や取得技術の習熟度向上等において本校教員が常にサポートする体制で行うこととしている。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業連携の授業時間を増やし、3社の連携企業からの実務担当者による実践授業をそれぞれに期間を区切って行なった。授業ではブランドの世界観やコンセプトを読み取り、マーケットに合わせた商品構成やシーズン企画について学ぶ。年間を通して企業からの講師による指導では、仕事の流れや専門技術の指導を受ける機会を設けており、なかには作品としてサンプル商品を作る高度に実務と一体となった課題を行なった。すべての段階において連携先企業からは専門職スタッフを招いて指導をいただき、学内基準とあわせて学生の学習習熟度の評価を行なっている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
職業実践講座	パタンナーとしての実務経験として、連携企業の商品を通してマーケットを理解し商品知識を深める。実習については実践的に技術習得するために、期間中は実務担当者によるワークショップや技術指導、学習評価を行う。	株式会社クレヨン
職業実践講座	パタンナーとしての実務経験として、連携企業の市場を理解し商品企画を行う。実習については実践的な技術習得を目的にしており、課題の商品は実際の商品として流通させることを目指している。期間中は実務担当者によるワークショップや技術指導、学習評価を行う。	株式会社ベネフィット
職業実践講座	パタンナーとしての実務経験として、連携企業の新しい取組みや課題をテーマに実習を行い、実践的に技術習得するために専門職スタッフを招いてワークショップや実習指導と学習評価を行う。	株式会社アズノウアズ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
<p>(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針</p> <p>※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記</p> <p>年度計画に基づいて講師を招いた勉強会やセミナー、業界団体の研修会への参加を計画している。アパレル造形科パタンナーコースの教科教員はトレンド、業界情報を常に得ている必要があり、生産現場における技術についても知見を得る必要があるため個々の教員に対しても必要性や自主的な指導力向上などの目的で研修やセミナーなどに参加する義務付け、学園が費用を負担し、勤務時間の調整などについても受講が出来る環境を整えている。また指導力の向上については学生とのエンゲージメント術などのトレーニングとして外部専門家講師を招いた研修を行い指導方法の質の向上を図っている。これらの職員研修は職務規定に付属する教員研修規定に沿って、校長・理事長をはじめとする上級職員において、全ての教職員へ受けさせることを義務としている。</p>		
(2)研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	アパレル業界研究	連携企業等: TSIグループ
期間:	2021年4月14日	対象: 関係教職員
内容	業界の動向、採用求人の傾向。	
研修名:	アパレル業界の仕事について	連携企業等: 株式会社アストリア
期間:	2021年5月25日	対象: 進路指導教職員
内容	就職指導における、アパレル業界の動向把握と人事人材キャリアプランについて。	
研修名:	衣装製作アトリエの仕事研究	連携企業等: アトリエ衣装製作者
期間:	2021年6月3日	対象: 造形授業教職員
内容	衣装製作アトリエの現場、仕事の流れ、求められる人材についての質疑応答。	
研修名:	お直し業界研究	連携企業等: 株式会社ツツキ
期間:	2021年6月8日	対象: 造形授業教職員
内容	お直し業界の動向把握とキャリアプランについて理解する。	
研修名:	パターンメイキング技術検定試験2級取得講座	連携企業等: 日本ファッション教育振興委員会
期間:	2021年6月22日～9月7日	対象: 担当指導教員
内容	パターンメイキングの技術を学び学生の授業指導力向上	
研修名:	アパレル業界研究	連携企業等: 株式会社ユニクロ
期間:	2021年7月6日	対象: 進路指導教職員
内容	就職指導における、アパレル業界の動向把握と人事人材キャリアプランについて。	
研修名:	合同教員研修会	連携企業等: 学内教職員間研修
期間:	2021年8月18日	対象: 全教職員
内容	指導力の向上のため、前期授業の反省と模擬授業シミュレーション。	
研修名:	造形系教員研修会	連携企業等: 学内教職員間研修
期間:	2021年8月20日	対象: 造形授業教職員
内容	造形系学科教職員の技術向上と後期授業の方針と授業内容についてシミュレーション	
研修名:	縫製・衣装製作の仕事について	連携企業等: 株式会社タカラ
期間:	2021年11月30日	対象: 造形授業教職員
内容	縫製・衣装製作の仕事と業界の現状について	
研修名:	下着デザイナー、パタンナーの仕事について	連携企業等: (一社)東京都服飾学校協会 /日本ボディファッション協会
期間:	2022年1月20日	対象: 造形授業教職員
内容	下着デザイナー、パタンナーの仕事と業界の現状について	
研修名:	アパレル企業9社合同セミナー	連携企業等: アパレル企業9社
期間:	2022年1月21日	対象: 造形授業教職員
内容	就職指導における、アパレル業界の動向把握と人事人材キャリアプランについて。	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	新しい価値を創造する力を育む専門学校教育	連携企業等: アドビ株式会社
期間:	2021年8月15日	対象: 関係教職員

内容	これから社会で活躍する学生がこの時代の未来を切り拓き、また`世の中にない価値を 創造する力を育む教育について考える。		
研修名:	就職等進路に関するセミナー	連携企業等:	公益社団法人 東京都専修学校各種学校協
期間:	2021年9月30日	対象:	就職担当
内容	「コロナ禍におけるオンライン就活ノウハウ・二極化が進む学生対策」		
研修名:	DX化授業	連携企業等:	株式会社アイリスオーヤマ
期間:	2022年3月18日	対象:	全教職員
内容	インタラクティブボードを使用した授業、ipadを活用した授業方法を習得する。		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	ファッションワールド東京	連携企業等:	(株)アダストリア (株)ワールド
期間:	2022年4月6日	対象:	関係授業担当教職員
内容	「ファッション市場の動向と消費者行動変化」、「最新トレンド分析情報収取」		
研修名:	国際雑貨 EXPO ライフスタイル WEEK 夏 セミナー	連携企業等:	株式会社アーバンリサーチ
期間:	2022年7月6日	対象:	関係授業担当教職員
内容	サステナビリティ・ファーストな経営を志向するアパレルが増えている。その目的と戦略を学ぶ。		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	DX化授業	連携企業等:	株式会社Too.
期間:	2022年4月7日～4月29日	対象:	全教職員
内容	授業への学生iPad活用方法、およびDX連動。		
研修名:	価値観を引出し活かす学生指導研修	連携企業等:	株式会社働く君と
期間:	2022年7月	対象:	全教職員
内容	コーチング理論、自己実現。		
研修名:	合同教員研修会	連携企業等:	学内教職員間研修
期間:	2022年8月	対象:	全教職員
内容	指導力の向上のため、前期授業の反省と模擬授業シミュレーション		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本項では平成28年度より、運営部の直下組織として自己評価委員会と並んだ位置付けで学校評価委員会を設置している。委員会は教務部より上位に位置する自己評価委員会の評価報告をもとに、透明性と公平性の為に学外からの委員を組織して自己点検・自己評価の検証と確認、必要に応じては助言や改善提案を行なっている。学校評価委員会での結果は運営部で取りまとめ、理事会でも報告される。報告後は本校の教育理念や目標と学校評価規定に照らし合わせて次年度の学校運営に反映して、公表する運びとなっている。委員については運営部が学外の関係者から選考し、学校長・理事長の承認を受けて委託を行なっている。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	A 学校の理念に基づいた教育が行われているか B 学校における職業教育の特色は何か C 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか D 学校の理念・目的・育成・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか E 各学科の教育目標、育成人材像は、業界の人材ニーズに向けて方向づけられているか
(2)学校運営	A 目的等に沿った運営方針が策定されているか B 運営方針に沿った事業計画が策定されているか C 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか D 人事、給与に関する規定等は整備されているか E 教務・財務当の組織整備など意思決定システムは整備されているか F 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制は整備されているか G 教育活動に関する情報公開が適切になされているか H 情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	A 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか B 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや 学習時間の確保は明確にされているか C 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか D キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか E 関連分野の企業・関係施設や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか F 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか G 授業評価の実施・評価体制はあるかH 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか I 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか J 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか K 人材育成目標の達成に向け、授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか L 関連分野における業界等との連携において、すぐれた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか M 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか N 職員の能力開発のための研修等が行われているか
(4)学修成果	A 就職率の向上が図られているか B 資格取得率の向上が図られているか C 退学率の低減が図られているか D 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか E 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか

(5)学生支援	A 進路・就職に関する支援体制は整備されているか B 学生相談に関する体制は整備されているか C 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか D 学生の健康管理を担う組織体制はあるか E 課外活動に対する支援体制は整備されているか F 学生の生活環境への支援は行われているか G 保護者と適切に連携しているか H 卒業生への支援体制はあるか I 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか J 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6)教育環境	A 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか B 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか C 防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	A 学生募集は、適正に行われているか B 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか C 学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	A 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか B 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか C 財務について会計監査が適正に行われているか D 財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	A 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか B 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか C 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか D 自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	A 学校の教室資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか B 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか C 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	A 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか B 留学生の受入れ・派遣、在籍管理棟において適切な手続き等がとられているか C 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

第7回「学校関係者評価委員会」での意見を取り入れた方策実施を含む自己点検・評価報告書を資料として、関係教職員も参加した学校関係者評価委員会を開催し、外部評価を実施した。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
上山 健二	繊維ファッション産学協議会 理事長	令和4年4月1日～令和5年3月31日	関連業界委員
齋藤 雅久	日暮里繊維組合 理事長	令和4年4月1日～令和5年3月31日	関連業界委員
池田 竹谷	(株)オルウェイズ	令和4年4月1日～令和5年3月31日	企業等委員
山下 敏秀	(株)たかくら新産業	令和4年4月1日～令和5年3月31日	企業等委員
若林 由美	高知大学	令和4年4月1日～令和5年3月31日	教育関係
若林 京子	保谷中学校	令和4年4月1日～令和5年3月31日	教育関係
大森 正樹		令和4年4月1日～令和5年3月31日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(○ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: https://www.tf.ac.jp

公表時期:

公表時期: 令和4年9月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の取り組みや、日常からの教育活動、学生の様子、社会貢献、就学成果などの多くの情報公開については、毎日ホームページやSNSを更新して行っており、各種員会の開催だけでなく日頃からの教職員との交流、意見交換、学校評価の場として企業懇親会を年に一回開催して開かれた学校運営を目指している。また自己評価、学校評価について包み隠さず公開し、各種委員や企業の方々に正しく判断出来るように情報を提供している。具体的な公開方法は以下の方法

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育理念／教育目標
(2)各学科等の教育	定員／カリキュラム／進級修業卒業要件
(3)教職員	教職員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	インターンシップ・研修／実践的職業教育への取組
(5)様々な教育活動・教育環境	インターンシップ・研修／学内学外イベント行事
(6)学生の生活支援	就職支援／校内報／サークル活動
(7)学生納付金・修学支援	奨学生進学制度
(8)学校の財務	資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表、人件費
(9)学校評価	自己点検自己評価報告書／学校関係者評価
(10)国際連携の状況	留学生受け入れ
(11)その他	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

☒ホームページ ・ ☐広報誌等の刊行物 ・ その他(SNS))

URL: <https://www.tfac.ac.jp/>

公表時期: 44652

授業科目等の概要

(服飾専門課程アパレル造形科パターンコース)																
分類				授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員 兼 任	企業 等 との 連 携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択	講 義						演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外				
1	○			スタイル画	デッサン、クロッキーからスタイル画表現力。 コンセプトからデザイン構成力と表現基礎。	1・ 前 期	35				○	○		○		
2	○			デザイン演習	テキスタイル技法や素材表現、コンセプトから デザイン構成力と表現基礎。	1・ 後 期	58			○		○		○		
3	○			トレンド分析	既存のブランドや市場トレンドの分析を行うこと で 分析能力、ブランドの考え方や企画プロデュース 能力を身につける。	1・ 通 年	85		○			○			○	
4	○			Mac演習	Macを使用したグラフィックソフトの技術取得 イラストレーター・フォトショップの初～中級 操作と実践、パワーポイントを使ったプレゼン テーションツール作成 各ソフトウェアの連動 操作取得	1・ 通 年	85			○		○		○		
5	○			ドレーピングⅠ	平面製図でおこなっていたものを、立体ボディ ー を使用し、実際の布（シーチング）をあてダーツ をとる事によって、実際のフォルムに合わせて いきパターンの仕組みを理解する。	1・ 通 年	95				○	○		○		
6	○			カラー	色彩学、AFT色彩検定受験対策	1・ 前 期	35		○			○			○	
7	○			ファッション素材学	アパレル製品の素材としての繊維、糸、生地を 理解し、製作、販売、衣生活に役立てる。 素材組成から各種素材、織、柄名称、素材加工、 取り扱いケア	1・ 後 期	60		○			○		○		
8	○			服飾技術実習	平面で製図したものが、用布を裁断・縫い合わせ ・ 立体化して着用する服となっていく工程の 理解と縫製仕様の習得	1・ 通 年	378				○	○		○		
9	○			服飾史	古代から現代までの洋服の歴史を知る。 素材から形まで	1・ 前 期	35		○			○		○		
10	○			就職ガイダンス	就職に関する基本姿勢を醸成、 対応策についてガイダンス	1・ 後 期	60		○			○		○		
11	○			職業実践講座・企画・ト レンド	コレクショントレンドやマーケットの流れを とらえ、ブランドのコンセプトやマーケット でのポジショニングを理解し商品企画を行う。 それをリアルに体験するために実践的に産学 授業を組み込んでいる。	2・ 通 年	190		○		△	○	△	○	○	
12	○			アパレルCAD	CADキーボードのショートカットキーを覚え ながら、軽衣料の製図をし、完成パターンを 作成していく。CADの基本操作を習得する。	2・ 通 年	85				○	○		○		
13	○			工業パターン実習	平面製図、立体裁断の技術実習。製品製図とグ レ ーディング。パターン検定試験3級取得対応	2・ 通 年	93				○	○		○		
14	○			ドレーピングⅡ	ドレーピング基礎の復習。 ブラウスやワンピースのドレーピング応用	2・ 後 期	60				○	○		○		
15	○			服飾造形実習	デザイン力強化を目的とした、作品製作、 パターン演習	2・ 前 後 期Ⅰ	265				○	○		○		
16	○			就職キャリアデザイン	自己理解、仕事理解を通して自分のキャリア 形成を考える	2・ 前 期	33		○			○		○		
17	○			卒業製作ファッション ショー 制作実習	卒業修了ショーに向けた作品テーマ、カテゴリ 企画。グループワーク。	2・ 前 期	35				○	○		○		
18	○			卒業製作実習	個別作品制作、卒業制作試作	2・ 後 期Ⅱ	113				○	○		○		
19	○			P Cワーク	Windowsパソコンの操作方法と、ビジネスソフト （Word・Excel・Powerpoint）の使い 方 の習得。 Powerpointを使って効果的なプレゼンテーショ ン	2・ 後 期	53			○		○		○		
合計						19	科目	1850 (単位時間)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	1700時間以上の履修時間を修めていること、及び各科目の総合評価が6以上であること	1 学年の学期区分	3 期
履修方法：	対面90%、オンライン10%	1 学期の授業期間	13 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。